

2019. 11. 2

畑 啓之

近畿大学はウナギの完全養殖事業に成功するか？ 乗り越えるべきは費用の壁

下の記事よりシラスウナギの体調は6cm程度で、シラスウナギ1kgは約5000匹だそうです。シラスウナギの価格として、まず目標とすべきは「1kgだと約5,000尾。1kg200万円として400円/尾です。」ですね。近畿大学がこの事業に成功するためには、卵からの孵化効率の向上、その後の歩留まり向上、そして餌と諸費用の低減化など、今後越えるべき多くのハードルがあります。

昔は川で当たり前に見られていたウナギも高価な魚となりました。近畿大学の研究に大いに期待しています。

ウナギ稚魚、今年も少なく 取引価格は前月比4割高 2019年1月11日

<https://yamba-net.org/45625/>

昨年12月、千葉県や鹿児島県など全国の主産地で漁が解禁されたが「稚魚がほとんどいない」（神奈川県採捕者）。漁獲が少ないため、価格は現在1キロ180万円程度と前月末から4割上がった。「この時期に3トンはとれないと足りない」（鹿児島県の養殖業者）と産地では焦りも出ている。

前年も漁期の始めは極めて不漁で取引価格は1キロ360万円近くまで高騰した。だが2月以降は漁獲が上向き、終わってみると全国で8.9トンの稚魚がとれた。今年度もこれからの漁獲に期待する声はあるものの、資源が減少傾向にあることに変わりはない。

シラスウナギ不漁で高騰と言うけど。

[https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1185395851](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1185395851)

菅 巧さん 2012/4/1111:12:47

シラスウナギ不漁で高騰と言うけど。1Kgあたり200万円超えるて聞くけど。シラスウナギ河口で捕れる透明な物1匹何グラム位有るのですか？1匹に換算すると幾ら？加工する時は何g有るのですか？

ベストアンサーに選ばれた回答

シラスウナギは体長約6cm、重さ約0.2gです。

1kgだと約5,000尾。1kg200万円として400円/尾です。

鰻の出荷時の重さは200~300g/尾。

## 近大、ウナギ完全養殖に挑戦＝人工ふ化成功、1000尾以上成長

11/1(金) 18:17 配信時事通信

[https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191101-00000109-jij-bus\\_all](https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191101-00000109-jij-bus_all)

マグロの次はウナギ。クロマグロの完全養殖に世界で初めて成功した近畿大学水産研究所が1日、絶滅が危惧されるニホンウナギの人工ふ化に成功したと発表した。飼育期間は最長50日に達し、体長約2センチまで成長したという。今後は完全養殖と量産を目指す。

通常養殖ウナギから採取した卵と精子を人工授精させてできた受精卵が9～10月にふ化した。現在、1000尾以上が餌を食べて成長しているという。体長約5～6センチの稚魚「シラスウナギ」を経て親になり、次の世代を産卵、ふ化する完全養殖のサイクルができるまで、3年程度かかる見通し。



シラスウナギ (コトバンクより)

ウナギの稚魚。全長5～6センチほどで透明。卵から育てる完全養殖は困難で、養殖に不可欠な天然のシラスウナギは高値で取引され、「白いダイヤモンド」と呼ばれる。

ウナギ (Wikipedia)

完全養殖

ウナギの人工孵化は1973年に北海道大学において初めて成功し、2002年には三重県の水産総合研究センター養殖研究所(現「増養殖研究所」)が仔魚(幼生)をシラスウナギに変態させることに世界で初めて成功した。

そうした中で2010年、水産総合研究センターが人工孵化したウナギを親ウナギに成長させ、さらに次の世代の稚魚を誕生させるという完全養殖に世界で初めて成功したと発表。25万個余りの卵が生まれ、このうち75%が孵化したと報じており、先に述べた稚魚の漁獲高減少もあって、期待を集めている。だが、孵化直後の稚魚の餌の原料にサメの卵が必要で、毎日水を入れ替えなければならず、人工環境ではほとんどオスしか生まれないため産卵のためにホルモンによるメス化が必要など、多くの課題が残されている。

2013年には、プランクトンの糞や死骸が餌となることが突き止められた。また、鶏卵やヤマメの精巣も餌になることが判明し、幼生は約9割が育つまでになった。しかし、2013年の現状ではシラスウナギ1匹にかかるコストは飼料代、設備投資、人件費、光熱費など1000円以下では無理だといわれている。水産庁は、完全養殖の商業化の目標年を2020年としている。

2019年には、人工で育てたシラスウナギを民間の養殖業者に委託し、成魚にするサイクルにはじめて成功した。これにより安定したウナギの生産につながると期待されている。